

0, 4, 5, 6, 10, 14, 17", 18, 24, 26, 27, 31
42, 44, 51, 57, 61, 62, 63, 64, 67, 68, 69, 72
77, 78, 80, 83, 84, 85, 86, 89, 91, 94, 99, 106
109, 115, 126, 131, 134, 135, 137, 139, 145, 146, 152, 154
155, 156, 159, 160, 165, 166, 168, 180, 187, 188, 192, 195
197, 198, 203, 204, 205, 209, 210, 214, 219, 221, 222, 224
225, 226, 227, 228, 230, 231, 232, 233, 235, 239, 241 :]

③ 25. 19. 94

لقد اصابكم وصدفتم عدواً

ピラ-は それをたゞ (天地間の存在者たち) 敵
と見てゐる。

④ 19. 95

وكلهم اتيه يوم القيمة فرداً

それらの 天地間の全のものは 57が27の日に
単独で (誰もそれらの 葬か出来ない) ピラ-
の前にくゞりあはす。

q. 天地間の全のものは人間と43 ~~は~~ = 47が来
るが 文の続きから...は 人間の存在者 文字通り
あはす存在者である。

[cf. = 43の P-が主張されてゐる = 47は、人間の存在者 自然
の個々のものは、それと全に超えてゐる P-の 47
(29 47の子) であり、47 であり... = 47は P-の 意志の存在に
あはされてゐる存在であり... = 47, P-の 9月には
されてゐるものは 何もない = 47, 47の 徴 であり、
(敵と見る)

47に47は... 87のものは P-は それを 47の 47と

12 規定されてゐる = 47, 77の 47の 徴 であり P-

給る

我々が生きるに必要とする自己を認め、それと対峙して
 感謝するから、4のようになるのである。1と4の間には
大きな差がある。アキラ-と1
 がある人間とは、それぞれ何であるか？1は
 自己から離れたものである。アキラ-から
 切り離された自己とは人間とはそれぞれ何か？
 それぞれがあるわけはないのである。人間が創造
 されたに於て、それぞれが始める時に於て、1に
 アキラ-が主人となるのである。1である。然
 る人間は単純に全存在する。それと対峙して
 ① 自分は、それと対峙して本来性を認める。それが
 である。他人はアキラ-である。礼拝、奉仕の
 対象である。それは自己無一文に於ても施すこと
 である。1は、1は「1」である。不自然
 である。他人を神と対峙してある。その施された他人
 の立場からみてもそれは矛盾である。施された瞬間に
 於て、施し返さなければならぬ。施すことは
 受けるべきである。

アキラ-には絶対への探求がある。何故かアキラ-
 -への奉仕は、全存在は受けるべきである

97. かつ、その自然に於て自然に於るべきものは...
 あり、やむを得ずその自然の姿、ありのままをはか...
しつゝ 雑打への直承は (1) せしむるべきあり。
 極端に於ては... 経済に於て...
 あり、アウターの宗教であるのは面白い。

雑打はアウター...
 自然は人間が...
 自然に於て...

⑥ 20.53

自然とアウターは人間のためにつくり給ふ。

[二つある観望は人間と自然が同格である...
 ... 人間は特別の地位を占めてゐる。
 ... 人間が... 自然...
 ... 人間は... 自然...
 ... 人間は... 自然...
 ... 人間は... 自然...

⑦ 20.55

その自然(大地)から人間が... 又その自然の...
 人間が...

... 人間と自然...

かれてゐる。しかし、この 人間の 存在 の 理由 が 述べ ら れ て い る。
 これは、当然 の 事、この 人 に は こ の 二 種 の
種 を、若 し こ の 二 種 が あ ら ば い い。 当然 に キ リ ス ト
教 の 借 用 で あ る。 信 道 は 永 遠 の 生 命 の
の 情 け を 示 す の、 或 は 教 の 本 質 の (プ ラ ー
と も な る 人 間 に は こ の 死 は 何 れ も な ら ず で あ る
こ の、 人 間 は こ の 二 種 の 永 遠 の 生 命 に あ ら ば な ら ず で あ る)
で あ る。 また 神 の 手 指 と し て 用 い ら れ た こ の 二 種
も あ ら す。

⑧ S. 21. 19

天地間にあるものは プ ラ ー の 手 指 の
プ ラ ー の 手 指 に あ ら ば い い る 全 て プ ラ ー の 常 の 証 と
し て い ふ こ の 理 由 に あ ら す。

⑨ S. 21. 30, 31, 32, 32

天と地は、一 枚 の 紙 で あ ら れ た (ア ダ ム、 神 と 地 を 分 け 給 は ら し) と い ふ こ の 理 由 に あ ら す プ ラ ー の 命 令 (給 は ら し)。
こ の プ ラ ー は こ の 理 由 に あ ら す 全 て こ の 理 由 に あ ら す。
大 地 の 理 由 に あ ら す こ の 理 由 に あ ら す。 道 を つ く こ の 二 人 に
あ ら ば い い る こ の 理 由 に あ ら す。 天 と 空 を 固 定 さ れ た。
 (こ の 理 由 に あ ら す こ の 理 由 に あ ら す こ の 理 由 に あ ら す。) 道 と 命。
太 陽 と A を つ く 給 は ら し。

⑩ 25. 21. 104

{ 最初の創造は ^{5th} さいわい 531: P₁ - は 3rd 創造は
< 4th 創造 (給). ~~4th 1st 2nd~~

即ち、創造は一回あったと見えて、
< P₁ - と 創造物との間の関係は、
で、P₁ - との新たな関係、P₁ - の新たな
支えは、PP₁ 絶えざる存在、
創造物は創造物に与る。二の連続性
の考へ方は、中庸の考へ方と同じく、
たると思ふ。

⑪ 25. 22. 18

{ 天地のありやう、太陽と月、星と山と木と金と
は、P₁ - に、人間は、
P₁ - に、
P₁ - に、

⑫ 25. 22. 65

P₁ - は地上にあり、人間の存在に
給ふ。天に与る。P₁ は人間の
と与る。

{ 天と地、その中が全うたのから得たことである。

①⑦ 5. 23. 78

{ P... - こそ 地獄に落ちた 罪人、相違、心でなく、
; T... 感謝するところ。

P... - 作品としての自分に責任を担う。と云
言われたら。

①⑧ 5. ~~23~~ 23. 79. 80

{ P... - は人間と 天に居る人間と 人間は天へ
集まる。 P... - は 生かされ給ふ。 夜と昼の交代
は P... - に 属す

①⑨ 5. 23. 84 ~

不信者に対して 地と天の上に居る者の 語高々と
誰に属するかと問うは、 信者と P... - に属する
と云うは、 それゆゑに 何故信者は 是れに
属するかと云ふか？ 信者は 天の主は 誰か。
と云うは、 P... - には 答へるべき。 何故 P... - には
それゆゑか。 何故その 所有物は 誰に属する
か？ 地を助けて 自ら助けたら 是れは 何？
P... - には 是れに 答へるべき。 ^{Task} 是れは 信者は 是れに 属する。